

四月から対面の授業を基軸に学生生活がスタートしています。このことについての思いや反応は十人十色で、「やっと本来の学生生活ができる」という声も、「対面になってしんどい」という声も聞きます。ただ誰もが同じように、日常を変えていかなくてもはならない中に置かれています。へ大学はもともと通学して対面で授業を受けるのが当たり

前」という考えや声明が強くなってしまふと、へオンライン生活に適應してきた日常から今度は対面中心に適應しなめす」という経験の独自さや、そこにまつわる複雑な思いは、自分にも他人にも聞かえにくくなっていきまふ。「当たり前」によって見過ごされてしまう部分の声は、そこに耳を澄ませてみないと聞かえないのです。

出来事を相手がどのように感じて体験しているのかは、尋ねてみないとわかりません。また、尋ねられて初めて自分の思いに気づくこともあります。「最近どんなふうに過ごしてる?」「あなた

学生相談室

だより **117**

カウンセラー 白坂葉子

はそれについてどう思っているの?」と、ほんの少しでも気持ちや言葉を出せるスペースが作れたら、そこで初めて存在を許される思いもあるでしょう。現実では、自分の思いと無関係に適應しなくてはならないことがたくさんあります。けれどその時、「本当はこう思ってるんだけど、今はこっちで頑張っているんだ」ということ

を知ってくれている人がいるだけで、随分世界の居心地が変わるように思います。

また、相手の声に耳を傾け、尋ねようとする思いやりや温かみが、そうしようとしている自分自身にも同じように向けられてほしいと願います。日々「やって

当然」「そうするべき」とこなしていることの後ろに、決して無視できないその人の苦労や努力があることは、大人も子どもも同じです。それはやはり、語られ、聞かれる価値のあることだと思っと思いますし、学生相談室ではそのような機会を作っていけたらと思っています。